

平成26年度 第1回徳島県企業局「戦略的経営推進委員会」議事概要

- 1 日 時 平成26年6月10日（火）15時00分～16時50分
- 2 場 所 県庁10階 企業局会議室
- 3 出席者 <委員>
濱尾 重忠（座長）（敬称略、以下同）
粟飯原 一平
坂田 千代子
真鍋 恵美子
<企業局>
中内企業局長、竹原副局長、尾方次長、塩見経営企画戦略課長、
湯浅電力課長、杉本工務課長、片岡政策調査幹
岩田総合管理事務所長

4 会議次第

- (1) 開会
- (2) 企業局長挨拶
- (3) 議事
 - ①企業局経営計画の平成25年度進捗状況について
 - ②その他

【配布資料】

- 資料1 企業局経営計画における「行動計画シート(平成25年度進捗状況)」
資料2 企業局経営計画（平成25年10月策定）

5 議事概要

- (1) 議題1 企業局経営計画の平成25年度進捗状況について
配布資料に基づき、事務局から説明を行い、質疑応答。
- (2) 議題2 その他
特に意見なし

< 質疑応答 >

議題1 企業局経営計画の平成25年度進捗状況について

[委 員]

「情報収集の強化」として、駐車場利用者へのアンケート調査で毎年200人の数値目標に対し、1,167人から取ってA評価としている一方、「駐車場の利便性向上策」では、駐車台数が前年比97.5%だったことからC評価としている。この評価は妥当と思うが、アンケート調査の内容や評価はどうだったのか、有意義なアンケート結果が得られたのかどうか知りたい。これをクリアしていけば、利便性向上に繋がり、利用台数増加に繋がっていくと思う。

(企業局)

アンケート調査は、利用者の性別や年齢、住所のほか、本駐車場利用の頻度及び理由など、今後の利用促進に繋げるための基礎的な内容となっております。

調査の結果、藍場町地下駐車場の利用実態は、目的は「買い物」が多く、本駐車場を選んだ理由は「慣れていること」、利用者の住所は「徳島市周辺」、利用施設は「そごう・アミコ」、利用時間は「3時間以内」でした。また、松茂駐車場の方は、目的が「高速バス利用者」、年齢は「30、40、50代」で、利用者の住所は「徳島市・名東郡」及び「鳴門市・板野郡」が多数でした。

[委 員]

要望を聞くアンケートではなかったのですか。

(企業局)

施設に対する要望も調査しており、藍場町地下駐車場では、「明るくしてほしい」、「利用料金の上限を設けてほしい」、「サービスの拡大」などの意見が寄せられており、特に、県内の方から、「利用料金の上限を設けてほしい」という声が大きかった。

[委 員]

やはり長い時間止めたいという人が多いということですか。

(企業局)

「あわぎんホール」の利用者が多いためと思われます。

[座 長]

せっかくこれだけ多くの方からアンケートを取ったのだから、活かしていただきたい。

[委 員]

85%以上がA評価という素晴らしい成績のなかで、「経営資源の有効活用」の「未

売水の低減対策」にC評価が2つ並んでいる。目標達成できなかった理由と、平成26年度に向けて工夫が可能なのか聞きたい。

(企業局)

工業用水の未売水の低減対策でございますが、経済情勢や社会的環境の変化による影響を受けやすい側面があるかと思いますが、やはり受水企業のニーズ、あるいは新たに設備投資を行った企業の動向、このようなところにアンテナを高くして粘り強く取り組んでいく必要があると考えております。

[委 員]

粘り強く取り組んでいけば、26年度以降は達成できていくだろうということですか。

(企業局)

使用量が少なくても、新たに設備投資を行うなど増える要素がある企業があれば、そういうところに対して企業訪問をしていくなどの地道な努力を継続して、目標に向かって頑張っていきたいと考えています。

[委 員]

「新たな発想を生み出す組織づくり」のところで、業務改善について183件の提案が現場から出されている。「ボトムアップによる現場力強化」について、提案を汲み取るような体制ができているのかお聞きしたい。

[座 長]

提案がいろいろな改善に結びついているのか、実績も含めて回答をお願いしたい。

(企業局)

企業局全職員が様々な意見を出して、現場の改善に繋げていこうという趣旨でやっております。昨年度も全ての職員から業務改善の提案が出され、その中で活かせるものは活かしており、例えば、ホームページの改善や資材の購入などについて、提案を取り纏めて効率的に取り組んでおります。

[座 長]

トヨタの強さはこれなんです。トヨタだと1年間に何万件、何十万件という提案が出て、その提案に対して表彰制度とか、いい提案はその結果について報奨金が出るとか、いろんな工夫をして、とにかく現場から提案を出して、それを取り入れてどんどん改善に使っていく。「カイゼン」という日本語がそのまま英語になっているくらい、改善をものすごく製造業は重視している。

企業局では、いい提案が出れば表彰するようなことはあるのですか。

(企業局)

優秀な提案について取り組んでいるところでありますが、今、委員長から話をいただきましたので、さらに表彰に繋がっていくような検討を進めていきたいと考えております。

[委 員]

「未売水の低減対策」について、受水企業は工業用水の使用量を減らしており、今後は全体的な見通しを立てないと、個別に受水企業に働きかけるのはあまり効果的ではない。今まではいろいろな決まりがあったが、新たな工場立地など、売っていない先で欲しがるところもありはしないかという気がする。

それと、「公有林化の支援」について、具体的に教えていただきたい。

(企業局)

工業用水の目的はもちろん産業活動に供するというのですが、最近、全体量の10%までは雑用水としての使用も認められております。我々としては雑用水の利用も増やしたいと思っており、新たなニーズ、また新たな企業で少しでも使うという情報があれば、検討を加え、企業訪問もしていきます。

次に、「公有林化の支援」について、企業局では「町が進める森づくりを支援」することとして、「企業局森づくり支援事業」を実施しております。3つのメニューがあり、1つめは公有林化取得支援で、水源地の町が森を買うときに企業局が購入費用を補助するもの、2つめは多様な森づくり支援で、間伐とか作業道など森林整備を補助するもの、3つめは地域振興費で取得した森林面積をベースに地域がいろいろな振興策に使える補助金を出しております。これら3つのメニューをバランス良く、町が自らの判断でもって使っていただく。山全体を公有林化して、それを適切に管理することによって、我々の主要な収入源である水力発電の水資源を確保していきたいと考えています。

[座 長]

先程の未売水に関連して、供給能力に対して、どのくらい売れていないのですか。

(企業局)

企業局は2つの工業用水を運営しており、吉野川北岸工業用水道は、給水能力が日量160,000m³ありますが、平成25年度の契約水量は日量106,000m³で、契約率は約66%です。阿南工業用水道は、給水能力が日量93,000m³あり、契約水量は日量73,500m³で、契約率は約79%という状況です。

[委 員]

太陽光発電は、計画どおり推移しているのですか。

(企業局)

マリンピア沖洲太陽光発電所は、平成25年4月24日から昨年度11ヶ月余り発電

し、計画の発電量に対する供給率は119.1%でした。一方、和田島太陽光発電所は、10月29日から5ヶ月余り発電し、供給率は125.1%となっております。

[座長]

いい天気が続いたわけですか。

(企業局)

はい。水力発電は渇水でしたが。

[座長]

太陽光発電は、工業用水と違って能力は持っているんだけど売れないことはなくて、作れば作るほど売れるということですね。プラス面は全部いい方向にいったということですね。

[委員]

経営計画の平成25年度進捗状況の結果ということですが、例えば、売上目標がいくらであって、その結果はいくらでしたなど、数字的なものはないのですか。

(企業局)

きっちり報告したいところですが、民間と違って官庁組織では、前年度決算については、6月議会では決算の概要を報告し、決算をすべてきっちり固めて正式に報告するのは9月議会となります。今、作業を鋭意進めているところであり、今日の時点でご報告できないことをお詫びいたします。

[委員]

経営者という立場からすれば、売上げがあって、経費があって、利益があってというのを見た後で、その内容についての活動内容を検証するということになるので、それを見ずに内容だけ検証するというのは不思議な感じがします。

[座長]

隔靴搔痒のところはあるが。

[委員]

3月までの決算でしたら、今頃、株主総会があって、決算は出ている時期である。

(企業局)

今のご意見は企業局内部でもありまして、経営状況と行動計画の両方が出揃った、先の方がよいのではという意見もありましたが、やはり計画の方は進捗状況が出ておりますので、それはそれで見えていただくということにさせていただきました。

[座 長]

先ほど委員から、「経営資源の有効活用」でC評価が2つあることについて質問がありました。C評価は非常に少ないですが、「適正な施設の維持管理」でC評価が1つついておりますので、ちょっとご説明いただきたい。「定期的な点検の実施」について、点検は進めていたが事故が起きてしまったのでC評価としたのか、あるいは点検の実施自体が十分進んでいなかったのか、この点はいかがですか。

(企業局)

勝浦発電所の電磁流量計が故障した経緯としましては、昨年6月7日に流量計の誤動作があり、調査の結果、11年経過した基板の経年劣化による故障と判明しました。この装置については、3年毎の定期的な点検を実施することとしておりますが、昨年度の点検前に部品劣化による故障が発生し、送電が51分間停止しました。

機器の点検実施につきまして、平成25年度、勝浦発電所関係で116項目について全て実施しております。

[座 長]

点検は予定どおり進んでいるが、事故があったからC評価としたということですね。ゼロというのはなかなか厳しい目標である。

(企業局)

安定供給として数値目標を供給支障事故ゼロとしているので、C評価としました。

[座 長]

A評価が多く、非常によく取り組まれていると思います。

議題2 その他

[座 長]

平成25年度の進捗を踏まえて、今後、計画は平成26、27、28年度と続けていただくわけですが、何か要望とか意見はありますか。

[委 員]

長安ロダムの工事が終われば、ダムはどの程度まで使えるという想定なのか。未来永劫使えるわけではないと思う。堆砂除去についても、分かる範囲で教えていただきたい。

(企業局)

ダムの耐用年数は、堆砂に関して100年くらいで計画されており、長安ロダムでは、土砂を外へ搬出して、できるだけ長持ちさせようとしています。また、減価償却費で会計上80年という数字もありますが、ダムの寿命について何年と決まった数字はなく、

ダムが設置されている場所及び環境によって変わってきます。

ダム劣化の要因は、空気中の二酸化炭素によってコンクリートが中性化すると強度が弱ってくるため、それを防いでやる。コンクリートにはアルカリ分が含まれており、これが膨張してひび割れを起こしますが、メンテナンスすれば長持ちするので、ダムの寿命はメンテナンス次第ということになります。

[委 員]

当面は堆砂を除くことで、さらに有効な利用ができるということなのか。

(企業局)

ダムの効用は、どれだけ水を貯められるかなので、できるだけそれを長持ちさせていく。もう1つは、ダム本体がきちんと機能するように補修をしていくことです。

(企業局)

長安口ダムは、昭和25年のジェーン台風による洪水を確率評価し、100年に一度の洪水として治水機能を設定しています。しかし、現在の評価では、治水安全度がかなり下がっている状況であるため、現在のゲートの高さよりもっと低いところに治水のためのゲートを新たに造っています。これは、出水に備えてあらかじめ行う予備放流水位を下げ、洪水を調整する容量を増加させようとするものです。それと、堆砂が非常に進んでいるので、その堆砂の除去と合わせてセットで事業をやっている状況です。

(企業局)

平成16年の台風の時には、上流で深層崩壊が数か所で起こり、200万m³も堆砂が進みました。

[委 員]

堆砂を少しでも長引かせるためには、上流の森林保全が大事である。

[座 長]

局長の挨拶にあったように、経営計画のPDCAサイクルをしっかりと回していくという姿勢は素晴らしいことなので、今後ともぜひ推進していただきたい。

なお、先ほど委員からもございましたように、結局どういう売り上げで、どういうふうな損益になったのか、また見させていただきたい。

以 上